

# 人・文化・まちを育む創造の広場「あおばの辻」を核とした、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設

## 歴史と敷地の分析

### 賑わいの中心「芭蕉の辻」

- かつての仙台城下には、大手門から伸びる大町通と奥州街道が交差する十字路（辻）があり、「芭蕉の辻」と呼ばれていました。
- 仙台城下の町割の基点となり目抜き通りの交差点で、辻を中心に市が立ち大いに賑わったと言われ、今もそこには記念碑があります。



### 2つの軸が交差する計画地

- 仙台城本丸跡から敷地を眺めると仙台市博物館、国際センター、計画地、宮城県美術館が直線上に並び、南北方向に向かう軸線が見えます。これを「文化芸術軸」とします。
- 計画地から沿岸部震災メモリアル施設の「せんだい3.11メモリアル交流館」への東西の軸線を描くと、震災・復興・未来という意味をかさね合わせることができます。これを「震災復興祈念軸」とします。
- 計画地は2つの軸線が交差し、仙台はじまりの地である青葉山エリアと都心部にまたがった場所に位置しています。

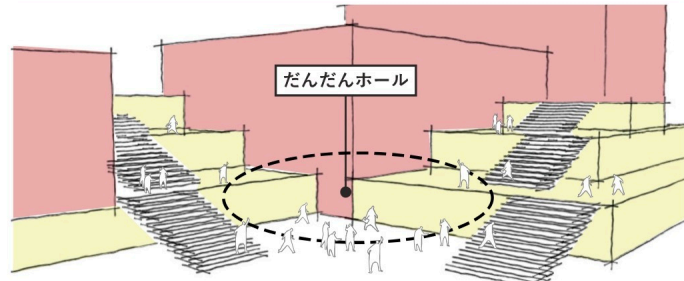


### 音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点

- 「文化芸術軸」と「震災復興祈念軸」の交差する計画地に、人・文化・まちを育む創造の広場となる新たな辻「あおばの辻」を提案します。
- 「あおばの辻」により仙台の文化芸術の総合拠点である音楽ホールと災害文化の創造拠点である中心部震災メモリアル拠点の2つが枠組を超え連携・協働する複合施設をつくりまします。

## 全ての人に開かれた新しい広場「あおばの辻」を実現する本計画の5つのポイント

### 01 全ての人につながる「だんだんホール」



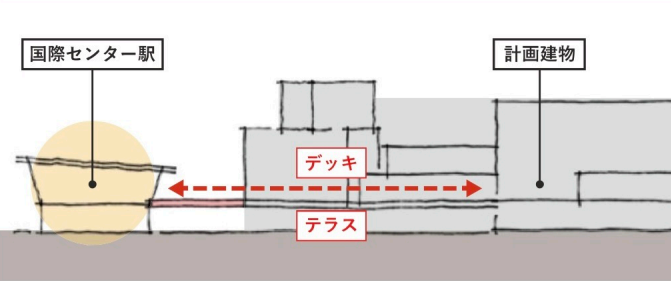
- 段々状に建物ボリュームを配置し、各階を大階段でつなぐことで、「だんだんホール」をつくりまします。そこでは、音楽ホールや中心部震災メモリアル拠点での活動がにじみ出し、文化芸術や災害文化の出会いが起こる場となります。
- 「だんだんホール」が空間的・機能的に繋がり、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の連携・協働の核となることで、仙台オリジナルの都市文化発信拠点となります。

### 04 災害文化を発信し、災害への想いを内省する空間



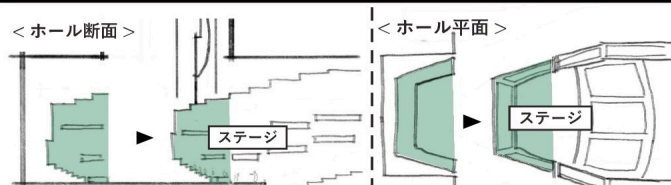
- 「あおばの辻」の上部にはデジタルサイネージを設け、震災関連施設等の情報を発信し、来館者に向けたゲートウェイ機能を果たします。
- 最上階に設けたクワイエットスペースは、災害への想いを「震災復興祈念軸」に向かって祈る場とします。開館時であれば、だれでも立ち寄ることができ、特別な時間を過ごす空間となります。

### 02 歩行者ネットワークの拠点



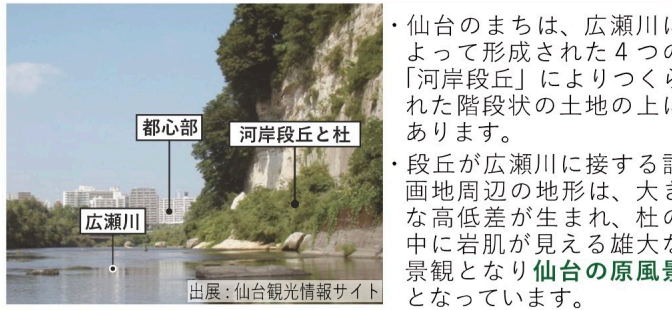
- 多くの施設利用者が国際センター駅を利用することを想定し、駅2階から、フラットに本施設に接続するデッキを計画します。2階のデッキ下は、雨に濡れることなく駅からアクセスできるテラスとします。
- 「あおばの辻」が、東北大学川内キャンパス・青葉山公園・国際センター・仲の瀬橋を結ぶ歩行者ネットワークの拠点となり、周辺施設との連携・協働を図ります。

### 05 2つの形式に転換可能な音楽ホール

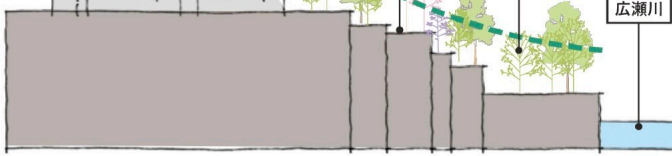


- 大ホールの規模は、2,056席を確保した規模とします。
- 音楽ホール形式とプロセニアム劇場形式の、2つの形式に転換可能なホールとします。
- コンサートホール形式としては、走行式を採用したサラウンド型に転換する計画とします。

### 03 仙台の原風景（河岸段丘）に溶け込む外観デザイン



- 仙台のまちは、広瀬川によって形成された4つの「河岸段丘」によりつくられた階段状の土地の上にあります。
- 段丘が広瀬川に接する計画地周辺の地形は、大きな高低差が生まれ、杜の中に岩肌が見える雄大な景観となり仙台の原風景となっています。



- 建物を段々状に積み上げ、河岸段丘と調和した形状とし、建物上部を高木緑化の植栽で覆うことで、まちの歴史・文化・風土と連続し自然と調和した計画とします。
- 仙台の原風景である、広瀬川の河岸段丘と杜に調和する外観デザインとします。
- 広瀬川を挟んだ都心部から青葉山の眺望を考慮し、広瀬川や青葉山と連続したシーンを計画します。仙台の杜に溶け込む建築として杜の都の新たなシンボルとなります。

## 建物各部の効率化を図りコスト削減を実現します 更新性に配慮した建物計画で大規模改修に配慮します

### 基礎構法の比較による工期短縮・コスト削減

- 直接基礎及び地盤改良、杭基礎等の基礎工法の比較検討を行い、工期短縮、コスト削減につながる最適な工法を選定します。
- 提示された地盤調査資料に基づき固結シルトと一部砂礫層に地盤深層改良をして支持地盤とします。
- 地盤改良は柱状地盤改良とし掘削土量の無い構法とすることで、残土処分費用を削減します。
- 在来の基礎地中梁をピットとする二重スラブ構法ではなく、マットスラブ構造を採用しマットスラブ上に湧水処理パネルを敷く工法により根切底が上がり、掘削費用、型枠工事費用を減らし工期の短縮をします。

項目	直接基礎 柱状地盤改良	直接基礎 浅層地盤改良	杭基礎 既製RC杭
工期	短縮	短縮	標準
コスト	削減	削減	標準
残土処分	削減	削減	標準
掘削	削減	削減	標準
型枠	削減	削減	標準
基礎	削減	削減	標準
地盤	削減	削減	標準
基礎	削減	削減	標準
基礎	削減	削減	標準
基礎	削減	削減	標準

### 機能・安全性と合理性を考慮した混構造形式

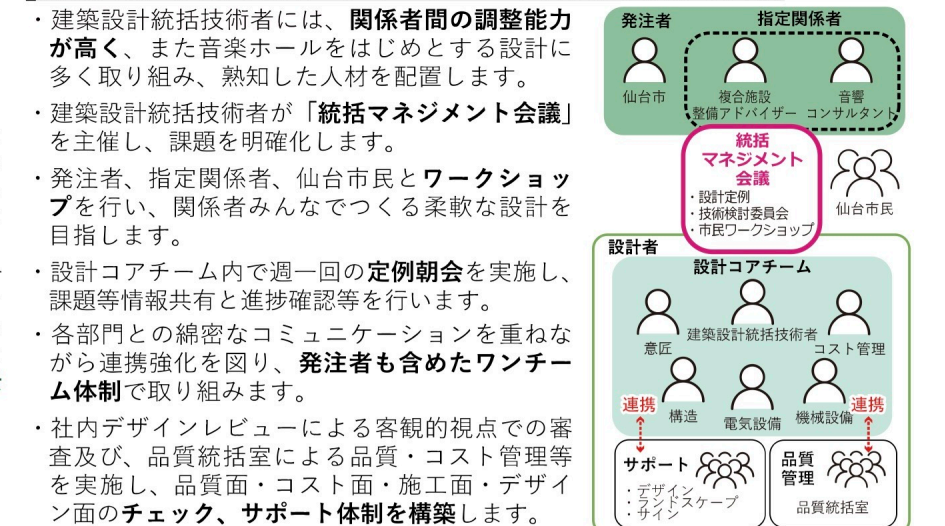
- ホール部分等は遮音・振動に考慮しSRC造を基本とし、スパンが飛んだ部分等はS造も用いるなど、合理的な構造方法を用いて、機能・安全・施工・経済性を考慮した混構造形式とします。

### 将来の大規模改修等の更新性に配慮した計画

- 建築設備機器に限らず、舞台機構、舞台設備においても、メンテナンスや更新が行いやすい動線や開口を確保した計画とします。
- 将来的に時代のニーズに合った改修が行えるようなフレキシブル対応（階高、壁面構成等）に配慮します。
- 耐久性に優れた工法・仕様・材料を選択し、長寿命化を図ることでイニシャル・ランニングコストを低減します。

## 関係者との連携を強化し、ともに創るチームをつくりまします 的確なコストマネジメントで事業をコントロールします

### 情報共有型組織を編成し、みんなで作る柔軟な設計を実現



### 的確なコストマネジメント

- 設計過程において、早期の段階でコストが概ね決定する（パレードの法則）とされており、早期での設計内容の確定を目指します。
- 設計の初期段階にて、VE項目を選定しコスト検証を図ります。
- VEリスト等のチェック機能の活用により、手戻りのない目標コストへの調整を行います。

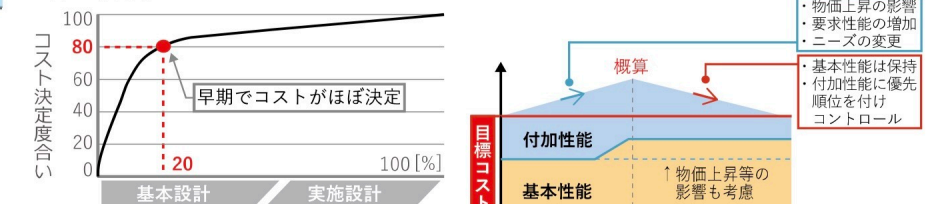


図. パレードの法則  
設計作業が20%進んだ段階でコスト決定要因の80%が決まるという法則

図. コストコントロール  
基本設計  
付加性能  
基本性能  
目標コスト  
概算  
早期でコストがほぼ決定  
20  
100 [%]  
基本設計  
実施設計  
物価上昇の影響  
要求性能の増加  
ニーズの変更  
基本性能は保持  
付加性能に優先順位を付けコントロール